

## Enrollment Guidance

### 入会案内

	会費	特典
正会員	年会費 8,000円 (入会月による) 入会金 2,000円	●会誌「混相流」(年4回発行)の送付 ●本会主催の講演会、フォーラム、講習会、セミナーへの会員価格での参加 ●学会誌への投稿 ●毎年贈賞する学会賞の選考対象 ●シンポジウムにおける優秀な発表に対するベストプレゼンテーションアワードの授与
学生会員	年会費 3,000円 (入会月による) 入会金 1,000円	
維持会員	年会費 50,000円 (入会月による) 入会金 10,000円	●1口当り個人正会員1名に相当する学会誌及び個人正会員に宛てて発信する情報 ●1口当り最大5名の、個人正会員資格での講演会・講習会の参加 ●学会運営に関し個人正会員1名に相当する権利(総会決議権等) ●広告費減免と企業紹介記事掲載
シニア会員	60歳以上で理事会で承認された個人 年会費 4,000円 (入会月による) 入会金 1,500円	正会員・学生会員と同様
混相流 アカデミー会員	シニア会員の資格を有す個人 入会費 50,000円	●会費および混相流シンポジウム参加登録費の免除(永年) ●会誌の無料送付。ただし入会后5年間に限定し、以降は実費とする。

### 入会申込みについて

入会申込書に必要事項を記入の上、入会金と該当する初年度会費を添えて日本混相流学会事務局迄郵送して下さい。  
その際、事前に郵便振替あるいは銀行振込みにてご送金をして頂き、その送金を証明する書類(コピーで可)を添付して下さい。  
詳細は、学会ホームページ <http://www.jsmf.gr.jp/> をご覧になるか事務局までお問い合わせ下さい。

### 維持会員リスト(2020年1月現在)

IDEC(株)、出光興産(株)、AGC(株)、ケミカルグラウト(株)、原子燃料工業(株)、(株)原子力安全システム研究所、(株)神戸製鋼所、三興空気装置(株)、ダイキン工業(株)、(株)ダイセル、大陽日酸(株)、(株)タクマ、東亜建設工業(株)、東芝エネルギーシステムズ(株)、(株)西島製作所、日本カノマックス(株)、日本原子力研究開発機構、日本システム(株)、日本たばこ産業(株)、(株)フジタ、(株)フジタ、(株)本田技術研究所、マツダ(株)、みずほ情報総研(株)、三菱重工業(株)、(株)Ligatic

(五十音順)



日本混相流学会

The Japanese Society for Multiphase Flow

#### 事務局

〒554-0022 大阪市此花区春日出中 2-14-9  
(株) 学術出版印刷内 担当: 近藤・中谷  
TEL 06-6466-1588 FAX 06-6463-2522  
ホームページ <http://www.jsmf.gr.jp/>  
E-mail: [office@jsmf.gr.jp](mailto:office@jsmf.gr.jp)



# The Japanese Society for Multiphase Flow

Activity information



日本混相流学会

活動のご案内

# Aiming for academic development and industrial use of Multiphase Flow

## Concept

### 混相流の学術発展と産業への活用を目指して

混相流 (Multiphase Flow) に関わる学問や技術は、機械工学、原子力工学、化学工学、土木工学、資源工学、宇宙工学、環境科学、医生物化学など、工学・科学における一分野として研究・開発がなされ、気液二相流、固気二相流、固液二相流、スラリー、液一液二成分流あるいは固気液三相流などとして、それぞれの分野ごとに独自に発展し、固有の体系がつけられてきました。

そのような状況下において、多相からなる物質の混合物の流動、伝熱および反応に関する現象、解析および興味に関して共通する事柄が多く、これらを総合して「混相流」という共通の立場で取り扱うことが望ましいと考えられるようになりました。これによって、一特定分野の研究・開発の成果が他分野にも応用され、波及しあって、すべての分野での一層の発展が期待できます。このため、従来の機械、原子力、化学工学、土木などの学問・技術体系を縦とすれば、「混相流」という横のつ

ながりをもつ新しい体系を構築する必要があります。

このような状況を受けて、日本学術会議は1973年に混相流研究所の設立を勧告、1982年、水力学水理学研究連絡委員会の下に「混相流小委員会」を設立し、従来の研究組織を横に結び連絡をはかるための活動を開始しました。この小委員会の下で、(1)個々の二相流分野の研究および事業に関する情報収集および情報交換、および(2)混相流としての総合的立場を社会的に広めるために混相流の全体系を講述する「混相流シンポジウム」が毎年1回開催され、その論文集は有用性により広い分野の研究者・技術者から高い評価を得ました。

これらの実績に基づき、上記小委員会が中心となって日本混相流学会の設立が建議され、1987年7月に設立総会が開催されました。1987年7月には混相流学会誌の第1号が発行され、混相流シンポジウムの開催、混相流レクチャー

シリーズ、インターナショナルレクチャーコースの開催など、その活動は今日まで発展の一途をたどってきています。特に、1991年に筑波において本学会がはじめて開催した混相流国際会議 (International Conference on Multiphase Flow) は、その後発展を続け、第2回(1995年)が京都、第5回(2004年)が横浜、2019年には第10回がリオデジャネイロで開催されており、2022年には第11回が神戸で開催される予定です。

現在、我が国は、社会構造の急速な変化により、厳しい状況下にあります。このような困難な時期にこそ、国内における学会活動のみならず、国際的に諸外国の学協会との連携をはかって、より高度な科学・技術の発展を通じて、将来に向けての新しい科学・技術の創造に寄与すべきであり、本学会の果たすべき役割も益々大きなものがあるといえます。

## Activities

### 主な活動

#### 混相流シンポジウム

最新の研究成果の発表とその討論を通じて、情報交換と会員相互の親睦を実現する講演会を開催しています。フラッシュトークとポスター発表では活発な議論が行われ、優秀講演賞も授与しています。

#### 研究会・セミナー・講習会

特定分野・テーマを取り上げ、深い討論と会員相互の研究交流を行っています。

- 若手研究者夏季セミナー
- 技術フォーラム
- レクチャーシリーズ
- インターナショナルレクチャーコース
- 研究会活動

#### 国際交流

海外の研究者との専門会議やメーリングリストにより、海外への情報発信と交流を図っています。

- 日米二相流専門家会議
- 日欧二相流専門家会議
- 混相流国際会議 (ICMF)
- News Letter

01  
Symposium

02  
Seminar

03  
International exchange

## Publications

### 刊行物

- 混相流学会誌



## Books

### 書籍

- 混相流ハンドブック
- レクチャーシリーズテキスト
- 混相流用語辞典
- オーガナイズド混相流フォーラム資料

## Lecture Series

### これまでのレクチャーシリーズ (一部)

- 濡れの諸問題—基礎から先端研究、実用面まで—
- 混相流の数値シミュレーション
- 気液二相流入門
- レオロジーと混相流—混相流の観点から複雑流体の現象を捉える—
- 光・超音波による流動場センシング単相流から混相流まで
- マイクロ・ナノバブルの特性と応用
- CTによる混相流の計測
- 気液混相流の計測技術—基礎と実用
- 気泡流・自由表面流れのCFD—基礎と最新事例—
- マイクロバブル科学の最前線とその独創的利用技術を探る
- 浮遊粒子状物質と環境処理技術
- 混相流の実験・計測技術の基礎 (試作試験・検証実験の技術)
- Javaによる流れ・気液二相流の数値シミュレーション (実習付)
- 汎用流体解析コードを用いた混相流解析の進展
- 機能性粒子のハンドリングと混相流
- 環境問題と混相流工学の接点をさぐる
- 粉粒体のプラグ輸送
- 離散粒子シミュレーション入門 (パソコン実習付き) (すぐ役立つ粒子運動の実践的解析)
- コージェネレーションと混相流
- 流動層と混相流
- 廃棄物処理技術と混相流
- 機能性混相流体
- 氷蓄熱システムと混相流
- レーザーを用いた混相流の計測と可視化
- 伝熱を伴う二相流と関連機器システム—ヒートポンプを中心として—
- 先端技術と混相流
- 混相流技術の基礎